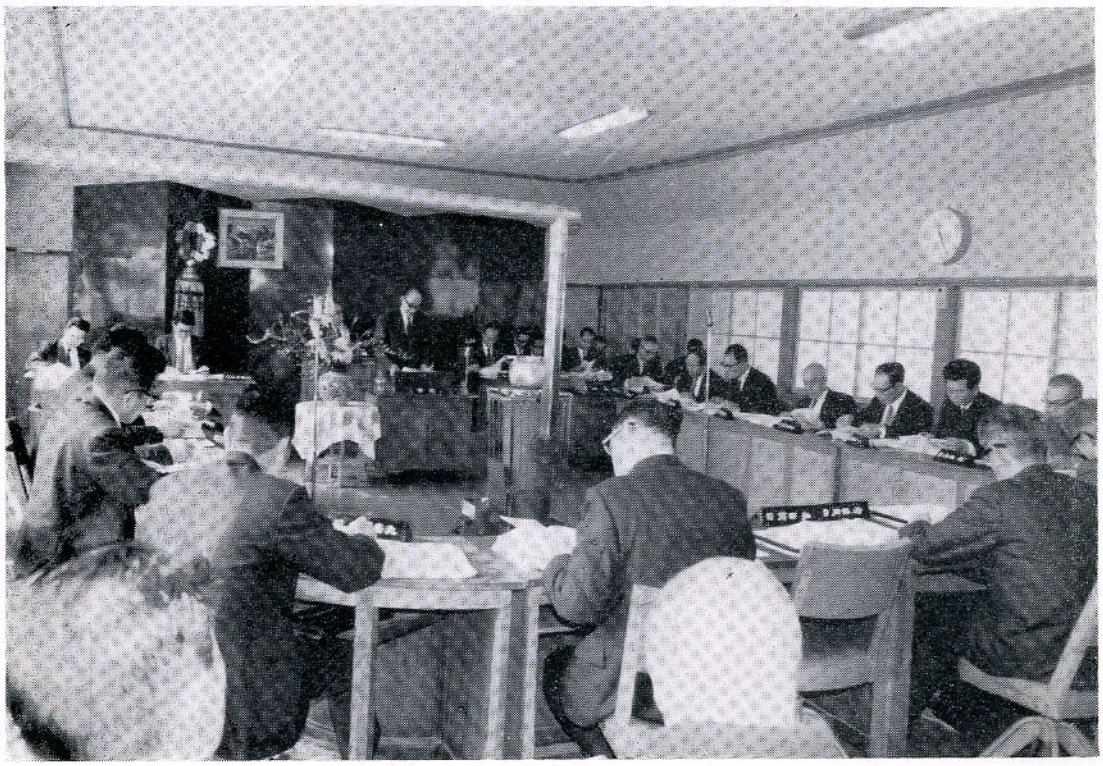
広報
さめがわ

1972
3月号
No. 220
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所



昭和47年度予算等成立す

村の昭和47年度一般会計予算を中心として、条例、補正予算などを審議する定例村議会は、3月10日招集され、7日間を会期として慎重審議が行われました。

その結果、条例案10件、規約案1件、予算案4件、計画案1件、単行議決3件、人事案件1件が議決され、村の昭和47年度に臨む行財政の基本的体制が確立しました。

⊙毎月1日は交通事故ゼロの日
⊙春の全国交通安全運動
　準備期間　3月6日～4月3日
　運動期間　4月4日～4月15日
⊙県知事選挙投票日「4月25日」
⊙第3日曜日は「家庭の日」です

今月の人口

（3月1日現在）

人口	6,483（＋9）
男	3,275（＋7）
女	3,208（＋2）
世帯	1,197（＋1）

投票で県政参加に胸を張り
棄権しないで投票しましょう!!

来る四月二十五日は福島県知事選挙の投票日です。今後の福島県の行政を左右する大事な選挙であり、県民一人一人が県政に参加できる唯一の機会ですからみんなで投票しましょう。

なお不在者投票がかんたんに役場で出来ますから選挙当日旅行その他都合により、不在になる方は是非不在者投票をして下さい。

三月三十一日から四月二十四日まで毎日午前八時三十分から午後五時まで、本人が役場にお出になれば出来ることになつております

子供の火あそび
山火事に注意

◉一月から五月までは山火事の発生しやすい季節です。タバコの火や、たき火の跡始末を完全にして、山火事の防止に努めましょう。

出して消すより、出さない用心

◉春さきは、子供の火あそびによる火災が多くなる季節ですから子供に火あそびをさせないように特に注意して下さい。

◉石油コンロやプロパンガスの取扱いに充分注意して下さい。

◉冬の間から焚き続けた煙突の破損やたまつたススを掃除して下さい。

火の用心

淡路の畜産を見る

村長　石田卯子八

福島県と淡路島とは別に何の関係もないように思えるところですが、福島県阿武隈山系開発促進協議会は、今年度の畜産事情調査の対象にこの島を選びました。

その理由は、この島で行われている和牛や乳牛の飼育が、乏しい粗飼料条件の下で、立派な集約経営が行われていること、および畜産団体の濃密なサービス活動が、畜産基地を目ざす阿武隈山系地域にとつて学ぶべき点が多いという考えによるものでした。

淡路島は、日本第二の大島ということになつていますが、面積は五九〇平方kmで、本県の四分の一以下で、北部は津名郡、南部は三原郡に別れ、山も多いが標高は低く、気候は温暖で、洲本平野にひらけた水田は、裏作の玉葱でほとんど埋められていました。

住民は半農半漁が多いとのことですが、この地の畜産が有名になつてきたのは、次のような特色があるためと思います。

1 島であるから土地はせまく、広い牧野や採草地はつくれない。草資源といえば水田の畦草位のものである。

2 それで肉牛では繁殖育成を主として、資質の優れた牛を生産しこれを有利に販売する機構が発達した。

3 乳牛では「牛乳づくり」というよりも「乳牛づくり」の畜産が発達した。

4 粗飼料に代わる低廉な濃厚飼料を協同で生産供配するシステムが発達した。

島の北部津名郡は和牛の産地で資質のよい但島系の肉用牛主産地を形成しております。飼育頭数は一一、六〇七頭ということですが一戸当りにすると二頭余で、当地とあまりかわりません。

しかし中堅農家は五頭以上飼育しているようです。

津名郡畜産農協連の活動には学ぶべきものが多く、その経営する家畜市場の近代的な施設には驚かされました。ここに出場する牛は組合指定の哺育飼料で飼われ、平均休重二二〇kg、昭和四五年度の育成和牛の市場価格は、平均一七五、五〇六円となつています。

予定価格で売れなかつた牛は、畜連がこれを引取つて、専用の畜舎で育成し、次に開かれる市場で販売される仕組です。

また、今後のための実験研究も盛んに行われ、常時一五頭程度の飼育で、自家労力を含め月収八六、〇〇〇円という実験成績もきかれました。

島の南部三原郡は酪農王国というような感じの地域で、ここの郡酪は広大な飼料工場をもち、乳牛改良センター、牛乳処理工場などすぐれた多くの施設を運営しています。資質のよい乳牛をつくること、粗飼料の少い悩みを、低廉な濃厚飼料を自ら生産してカバーしている点など、さすがに先進の域を行く感を深くしました。

私は草資源の乏しいこの地帯でこのような畜産が成長していることに驚異を感ずるとともに、これから開発されるべき阿武隈山系地域の未利用資源の開発が行われることによつて、広域大規模畜産基地形成の期待が、いよいよ高まるのを覚えたのであります。

（この調査団は、石田村長を団長として、阿武隈山系内町村長、東北農政局調査事務所長、県調査室職員等二〇名で組織され、二月八、九日現地で調査が行われた）

人事

◉昇格・異動（二月二十一日付）
主事　添田剛弘　主査に任じ土木課土木係から診療所事務長事務取扱に

◉監査委員選任（三月十五日付）
議会の同意を得て水野馨氏がふたたび監査委員に選任されました。

おめでた

二月

道少田　鈴木　直美　父　正　晴
江竜田　鈴木　幸次　〃　源　一
大塩　山本　寿夫　〃　実
青生野　白石　季男　〃　政　敏
落合　我妻　芳浩　〃　福　雄
岫長　北条　豊伸　〃　水　城
滝平　円井　一三　〃　富　宣
青生野　岡部ゆかり　〃　昭　男
摺合　芳賀美紀子　〃　貞　夫
真坂　湯坐　宏治　〃　武
岩野草　坂本たみ江　〃　忠　雄
青生野　金田　三男　〃　七五三明

おくやみ

二月

前塩倉　矢吹　キク　84才　世帯主
田苗下　蛭田　茂信　83才　一　明
福原　芳賀　ツヤ　74才　正　夫

四十七年度の予算編成方針

一般会計 予算額三億九千百三十万円
特別会計を合せて五億二千万円

去る三月十日に、予算村議会ともいわれる定例議会が招集され、一般会計、特別会計を合せ総額五二〇、九六三千円の大型予算案と老人医療費の助成に関する条例の制定等二十議案が提案され、七日間の会期を通じて各常任委員会ごとに慎重な調査審議が行われ、十五日の本会議で、全議案とも原案どおり可決されました。

住民の福祉を最重点に

先ず全議案が一括上程され、石田村長から、予算編成の基本方針として、「人間尊重」の行政を基本理念として、次の重点施策を行うことを明らかにされました。

一、福祉の密度を高め、住民生活の向上も図る。
二、地域生活圏を整備し、より住みよい郷土をつくる。
三、住民経済の安定的成長を進める。
四、優れた資質と能力を養う教育の振興を図る。

老人保養施設年度内着工を目指す

待望の老人保養施設が広域市町村圏整備組合の事業として本村内に建設される計画が決定したのをはじめ、八十八才以上の老人に年額三、〇〇〇円の敬老年金を支給すること七五才以上の医療費が無料（県と村で負担）になるほか、国保給付が改善され、育児手当、葬祭費が引上げになる。診療所の改築、母子センター、保育所の充実児童手当の支給、家庭奉仕員の設置など社会福祉の密度は画期的に高くなります。

地域生活圏の整備を進める

広域常備消防四月から発足

現在広域市町村圏整備組合で、道少田地内に建設している常備消防の庁舎は三月末に完成する。四月一日からは九名の消防士によって常備消防の業務が開始されます。

また簡易水道も四十七年度中には道水管の伏設を完了して給水が始まります。交通通信施設の整備には最も力が注がれ、村道の改良は山村振興計画、辺地対策、広域圏事業などで前年度より二〇、八%の伸びが予定され、村道改良を県が代行する制度も採用されます災害復旧事業も大巾に計画され、県道の改良舗装事業は県に一億円程度の事業を要望する村の負担金が計上されました。

首都圏農業で経済の安定成長

農業後継者の育成＝特産物の振興

こんにゃくと葉たばこの特産物を組織化して成長させ、養蚕は集団桑園を普及して振興を図る。米の生産調整に関連して土地改良事業を促進する。山村振興特別開発事業としては、西野に生活改善センターを建設するほか、土地基盤整備、林業、商工業の振興を図る

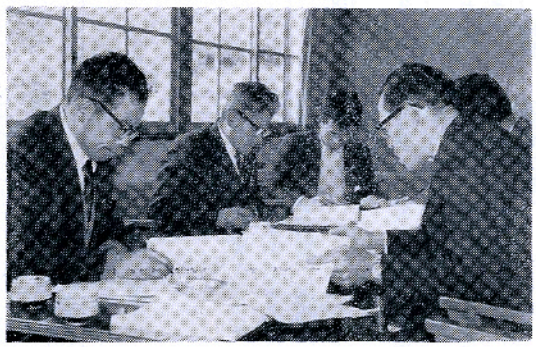
西野小に屋体、渡瀬小に水泳プール

統合中学校の施設整備事業は、四十六年度で完了したので新年度には小学校教育の振興を図るため西野小に屋内運動場、渡瀬小に水泳プールを計画し、また遠距離の児童、生徒の通学のためスクールバス一台を増設する。教員住宅の建設も予定されています。

なお、広域市町村圏整備組合の事業として、青少年の建全育成のため西郷村に「青少年の家」を建設研修の場とする計画があります



3月定例議会は連日多数の傍聴人がつめかけました。



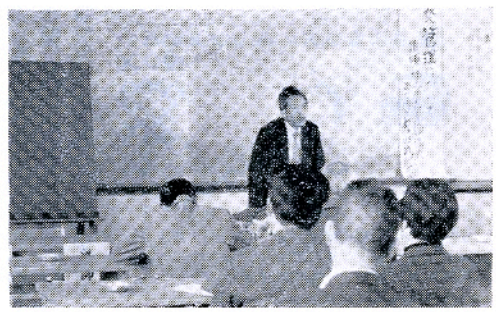
常任委員会で熱心に議案調査をする議員さん。

畜産の振興を図る

＝盛況だった研修会＝

去る二月十五日に、養畜鮫川支部（鈴木一実支部長）では、講師に県畜産試験場長吉田武紀農学博士を招き、「家畜の飼養管理について」と題する畜産振興の研修会を畜産センターで開きました。

講演にさきだち、石田村長から兵庫県下の肉牛飼養についての話があり、次いで吉田博士の講演に入りましたが、会場は農業改良推進員を始め畜産家等七五名の参会者があり、メモをとりながら熱心に聴講され、有意義な研修会でした。



盛大に冬のスポーツ大会開催

鮫川村公民館と鮫川村体育協会は、少年から老人までを対象に去る二月十一日に鮫中屋内運動場で冬のスポーツ大会を開催卓球、剣道、柔道など終日熱戦が展開されました。

☆婦人や老人の体力増強☆

＝スポーツ民踊に多数参加＝

青少年のスポーツは卓球や柔剣道、壮年以上は、郡山スポーツ民踊協会から講師を招き、踊りの指導を受けました。

◉卓球

（団体）

一位　西山チーム
二位　郵便局チーム
三位　役場チーム

◉柔道

（一般個人）

一位　岸波　栄勝
二位　舟木　久
三位　青戸　貞美

（中学生個人）

一位　芳賀　英次
二位　藤田甲子夫
三位　鈴木源太郎

◉剣道

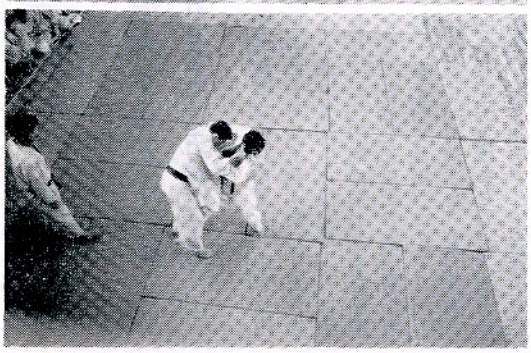
（一般個人）

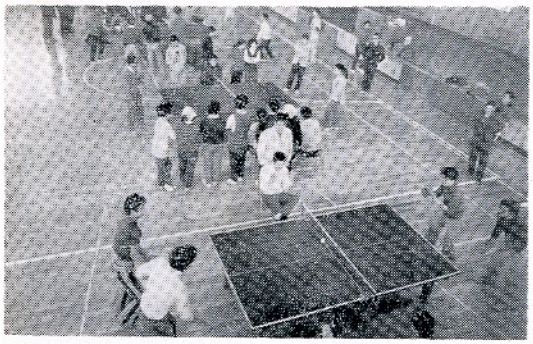
一位　関根　英也
二位　芳賀　芳雄
三位　大楽　勝弘

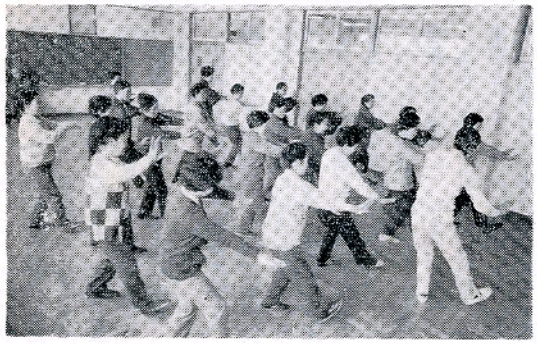
（中学生個人）

一位　大池　義厚
二位　舟木　武昭
三位　小松　照義









＝児童生徒の健全育成＝

鮫川村連合ＰＴＡでは昨年の八月からＰＴＡの事業として、村内の児童生徒の健全な育成をねがって、校外補導を行っております。

児童、生徒のための施設、風紀上の問題等どんなことでも結構ですから、お気付のことがありましたら、補導委員にご相談下さい。

・委員長　鈴木　一実
・副委員長　舟木　国児
・委　員

（西山方部）

関根乙夫、松崎清次、我妻ミツ、鈴木誼、本郷栄治、阿久津作次、関根昭二、我妻隆、関根仁、鈴木一実

（西野方部）

佐藤弘一、増子久美、高坂盛栄、生田目俊光、舟木仁、北条久弥、須藤照司、緑川カツ子、須藤金一、秦光義、根本好幸

（渡瀬方部）

赤坂基、松本幸典、木之内喜久雄、小松幸次、芳賀寛一、藤田義雄、藤田好幸、蛭田栄次、蛭田覚、高久和雄、国井鬼子治、蛭田藤留、鈴木昭、紺野広光

（富田方部）

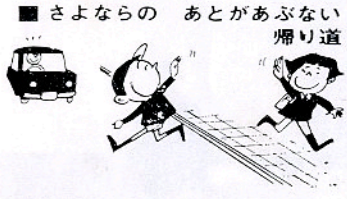
渡辺作太郎、我妻清一、坂本春光、星サダ子、宗田修一、石井清重郎、松本源一

（青生野方部）

稲村長治、生田目忠之助、大竹睦子、平久江マツノ、石井しん、岡部イネ子、新妻栄子、笹島マツヨ、穴沢ミネ、吉成義郎、星弘、菊地理夫、高山胤能

（中野・東野方部）

白坂真平、矢吹一男、高木定典、矢吹利己、鈴木辰男、中川西一郎、芳賀キク、中川西博、鈴木作衛、中川西寅男、宗田悦次、小松源方、舟木国児、大河内平、鈴木市悠、本郷広美、鈴木長一、関根初吉、森重寿、武井和雄、角田平吉



おともだちとわかれて、おうちにかえるときはあわててかけだしたりしないで、みちのみぎはしをただしく、おちついてあるきましょう。

広域常備消防

四月一日から発足

白河地方広域市町村圏消防本部鮫川出張所の庁舎（二階建、望楼四階延三〇三㎡）は三月下旬に完成、常備消防士九名、消防自動車ポンプ一台、連絡車一台が配備され、四月一日から業務が開始されます。

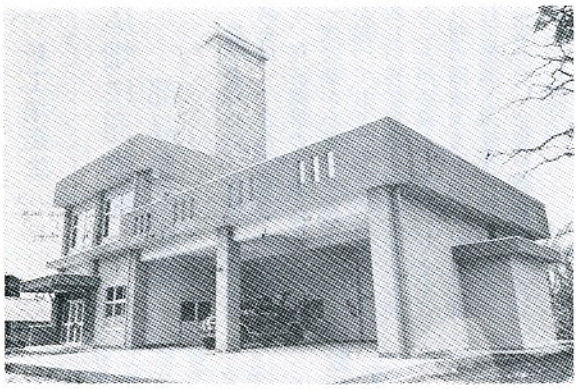
火事と救急車の連絡は一一九番

＝あわてず……あせらず……まず場所を＝

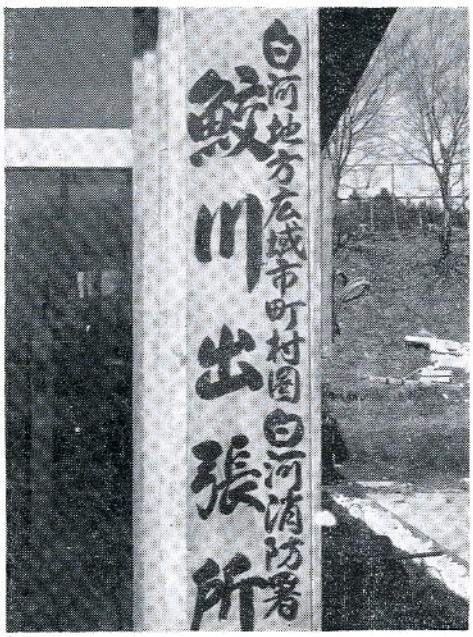
電話で火災の緊急連絡又は交通事故や急病のため救急車の出動を要請する場合は、郵便局に火事又は緊急連絡と申込んで下さい。

鮫川出張所には、救急車が配備されていませんが、棚倉分署又は塙分署から出動することになります。

一一九番の電話番号は従来農業共済組合鮫川出張所が使用していましたが、このたび緊急連絡用電話となつたため農業共済組合鮫川出張所の電話番号は一八一番に変りました。また一一九番は緊急連絡専用で、一般通話はできません。緊急以外で常備消防鮫川出張所に電話をするときは一八二番です。



完成した白河広域圏消防の鮫川庁舎



春の全国交通安全運動

四月四日から十二日間にわたり、春の全国交通安全運動が実施されます

この運動は、歩行者や運転者等すべての者に交通安全思想の周知徹底をはかり、正しい交通ルールの実践を習慣づけ、交通事故防止の徹底をはかるため実施されます。

〈スローガン〉

子供を交通事故から守ろう

交通事故は、自動車の増加に伴い年々ふえております。交通事故は、運転車と歩行者が注意すれば必ず防止できるものです。お互に交通ルールを守り事故の撲滅に協力して下さい。

飲酒運転・無謀運転はやめましょう。

◉県の公安委員会が、新宿地内の丁字路（橋本商店前）に「一旦停止」の標識を設置しました。

必ず徐行し一旦停止をして下さい。



新入学児を交通事故から守ろう

―― 緊急連絡は119番 ――

虚礼廃止

小松幸一

虚礼をやめて豊かな村つくり。病気見舞のおかえし、入学入園のお祝、旅行の餞別など廃止しましよう。というポスターを鮫川村新生活運動推進委員会、婦人団体連絡協議会、鮫川村、鮫川村公民館の連名で各戸に配布したのは三年前であつた。時宜を得たことと大賛成特に病気見舞のおかえしは声を大にしてこれが徹底実現出来るよう力説努力したがその効もなくそのまゝである。

私は昨年病気入院して沢山のお見舞をいただいたが、この時お返しを廃止したのであつたが、その後三人の方から快気おかえしをいただいたので誠に心ぐるしい心境である。

岩瀬郡岩瀬村では二月十日に村内各層代表の総会で「病気見舞のお返し」を全廃した、二月十三日の東白川郡婦人団体連絡協議会の第二十三回郡婦人大会で「病気見舞のお返し」をやめる運動を強くすすめることを申し合わせた、と新聞は報じているので鮫川村でも是非実現出来るよう望んでいる。



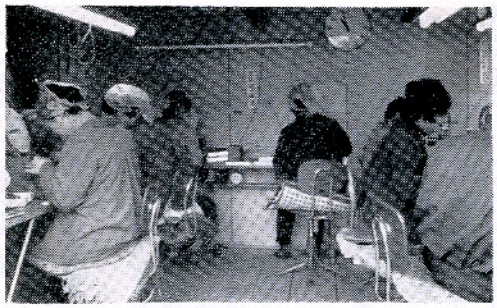
新工場誕生

広畑に通信器部品製造工場

農業を中心に、畜産や林業の振興を図つてきた本村も、社会情勢や、経済機構の変革に伴つて、第一次産業から第二次産業への移行が起つており、農山村においても新しい経営意識で経済の振興を図ることが必要とされております。

村の議会でも昨年の十二月に農村工業導入調査特別委員会を設け公害のない企業の調査導入に力を入れています。

最近、織和工業、富岡電子鮫川工場、岡本理研水越工場につづいて赤坂東野字広畑に、北陽電機株式会社の下請工場（責任者生田目春男）ができました。現在八名の工員で、飛行機や船舶用通信機の部品、電子オルガンの発信部品を製造していますが、近いうちに三十名程度に増員する計画ということです。



広畑の通信器部品製造工場

鮫川史（32）

安永天明の二大飢饉に残る陳情書

国島義広

乍恐以書□□□上候事

私共村々之儀（此の間虫喰にて不詳）極山中高地之場所ニ而北ハ大熊川（阿武隈川の当字か）水上南ハ久慈川水上、東はさめ之川水上に而、例年脇村々より冷気相強村々ニ御座候処、当年之儀ハ別而土用中永雨ふり続、不時冷気ニ而山沢之儀冷水相用申候ゆへ、向後青立ニ相なり勿論、七月廿七日より廿八日迄大風雨ニ而、田畑共大損毛ニ相見へ申候間早速御注進申候得共、冷気ニ付、例年より格別出穂勿論ニ御座候。

青立故見定候事も相成兼、段々立返り可申哉ニ奉存候ニ付、御捨免入と不奉願候段、以書付奉申上候処、八月下旬より九月中度々大霜降、悉青立枯稲ニ相成、早稲中稲収納仕候而、夫食等ニ少々宛米摺立申候所、過半青米糠米多砕粉打悪米ニ相成米怔無御座、種夫食等ニも相成兼程ニ、不熟米売払候ニも買人無御座、寅卯両年大旱魃以来至而困窮、百生（百姓の誤り）御年貢御上納可仕手段無御座、当方（途方の当字）ニ暮、潰候外無御座、難儀至極仕候。

何卒御慈非（慈悲の誤り）之御仁意を以、御年貢米方之分、不残下米平均値段を以、石代金納仕候様、被仰付被下置候はゞ、困窮百姓ヶ成ニも取続キ、村々惣百姓相続仕、難有奉存候以上

安永三年九月

南郷四ヶ村
赤坂郷六ヶ村
蔭山外記様
御役所

三印

右之通願事差上申候

石井草村
名主

中川西吉兵衛㊞

乍恐以書附奉願上候御事

一、去ル卯之年（天明三年を指す）儀ハ凡ソ百年古来聞伝ニ茂無之大飢饉、村内惣百姓甚タ難儀至極奉存候、猶又当年ハ凶作打続キ候間難儀ニ奉存候。

当分より種夫食共ニ諸持改候者無御ゆ候。依テ為種子代金ト五拾両并夫食トシテ弐百俵、何卒御慈悲以御了簡ヲ奉御拝借度候。

御上納之儀ハ来十月急度御上納可仕候。何卒願之通り御仰付被下度候バ難有キ仕合ニ奉存候以上

惣百姓印
長百姓印

右私共奉願上候通り相違無御座候願之通り以仰付被下至極ニ難有次第ニ奉存候

塙
御役所

組頭印
名主印

（原文）
（以上二通共芳賀光美氏所蔵）

俳句二月作品

雪激すさびくぎどれも曲りいる　山本　朗史

シクラメン真夜飛ぶ羽根をたたみ切れず　山本五十鈴

道拓く坪総会やマスク買ふ　国島　五黄

炉にかざす母の太指貴ける　吉田　羊羊

冬至雲流れて峯の炭木伐る　高坂　蚯切

寒芹の伸びしを見せる主婦の声　蛭田　七星

辛亥の紫ふとん街を行く　須藤加津夫

色はえて達磨売り出す雪の上　星　貞子

絵馬堂を出で頬にくる梅の風　金沢　斗暁

短歌二月作品

落葉掃き堆肥をつくる農婦らは隠差す林に声立てゝ居り　杉山　忠男

ビニールのごみ花かげにえみじく

もちさく光りし猫柳の穂　中川西好幸

たくましく働く吾娘よ汝が末を憂ひし母は今逝きてなし　蛭田　七星

グアム島に木の実魚で生き続け一十八年横井かいりぬ　水野　風斉

木の股に枯葉残して辛夷咲く裏の竹やぶに春の訪れ　円井　モト

七草を過ぎし路傍の工事場に主婦ら焚火を朝囲める　関根　一好

